

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年7月4日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103474
法人名	有限会社 にこやかライフ
事業所名	グループホーム さくら荘
所在地	鹿児島県鹿児島市坂之上七丁目38番56号 (電話) 099 - 284 - 2330
自己評価作成日	平成29年5月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年6月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、訪問看護ステーションと連携し、利用者様の健康管理、疾病治療、緊急時の対応等 医療連携の強化を図っています。  
 2、利用者様の『命と暮らしを守る』を目標に、通報・消火・避難訓練等定期的実施しています。又消火設備、エレベーター設備等定期的に点検整備を実施しています。  
 3、介護の質のレベルアップの為、勉強会やOJTに注力しています。又職歴に応じた長期目標を設定し、外部研修に参加しています。  
 4、桜、梅、すもも等花見の季節には、広い芝生の庭に出て、花見や食事を楽しんで頂いています。花壇や菜園等、四季を感じる事が出来る住環境の維持に努めています。  
 5、地域の一員として、夏祭り、敬老会など町内会行事への参加や、高校生、中学生の職場体験学習の受け入れ、又事業所の行事に地域の保育園児や老人クラブの参加を頂いたり、地域との交流に努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携が図られ、健康管理や緊急時の対応が円滑に取れるため、本人や家族の安心に繋がっている。
- ・町内会に加入し、役員も担い夏祭りや敬老会などの地域行事にも積極的に参加するとともに、事業所の行事にも保育園児や地域の人々の参加がある。野菜などの差し入れもあり、認知症についての相談や助言などもするなど日常的に地域と交流している。
- ・代表者や管理者は職員育成に力を入れて、職員の意見や提案を積極的に取り入れ反映させている。足漕ぎ運動器具を設置して下肢筋力の衰えを減らすなど、職員は利用者がその人らしい生活ができるように支援している

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り時、定例会等の機会を捉え意識付けを行っている。朝の申し送り時に世界人権宣言や、認知症の定義と合わせて理念を斉唱している。	理念は職員で話し合い作成した独自のもので、玄関や事業所内に掲示している。朝礼時に唱和し、ユニット会議や全体会議等で振り返り、理念を共有して実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	石塚町内会の行事（資源物回収、夏祭り、夜回り、清掃活動等）に積極的に参加している。地域の敬老のお祝いにご利用者様も参加している。 くら荘の行事（敬老のお祝い、母の日のお祝い、運動会等）に、町内の老人部、保育園児、情報高校の生徒さん達に参加して貰い交流している。	町内会に加入し、役員も担い清掃活動など地域行事に積極的に参加している。ホームの行事の運動会や敬老会等に保育園児のダンスや大学生の三味線演奏がある。中学生の体験学習や高校生・ボランティアの受け入れなども行っている。野菜などの差し入れや認知症についての相談を受けるなど日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方が、家族や知人の事で相談に来られる。石塚町内会、石塚むつみ会、婦人部会等で機会を捉えて認知症への理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>委員には施設運営状況報告やメディア等の福祉関係情報を、地域の問題等と合わせて話し合い意見を活かして相互理解に努めている。定例会で報告され、職員も話し合いの内容を把握して、サービス向上にいかしている。</p>	<p>会議は2ヶ月毎に開催している。ホームの行事報告や入居者の状況・ヒヤリハット・外部評価の報告等を行い、参加者からも多くの助言や提案がある。災害防止対策や不審者対策なども話し合い、サービス向上に活かされている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加をして頂き、成年後見人の手続きなども協力して貰っている。鹿児島市の担当者に法令違反がないように、随時、相談し指導を受けている。</p>	<p>市の担当者とは窓口に出かけたり、電話で日頃から相談をしたりアドバイスを受ける等、連携をとっている。毎年介護相談員を受け入れている。市主催の研修会にも積極的に参加し、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>月に1回身体拘束廃止委員会を開いて検討している。参加者は日勤者が誰でも参加する。参加する前に一階二階それぞれで話し合い検討議題を提示し、検討する。結果は書面に残し皆で回覧して内容を確認している。</p>	<p>毎月、身体拘束廃止推進委員会でマニュアルに沿って事例や課題に基づいた勉強会を行い、職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束についても注意し合っている。日中の玄関の施錠はせず、外出希望があった時は、職員間で連携して利用者の思いに沿った支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止について社内研修を実施している。職員間でも言葉による虐待に繋がらないように都度お互いに注意しながら声掛けをしている。月に一回委員会を開き検討事項を、自分達で考えて検討している。結果は皆で回覧して確認をしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会のテーマとして取り上げ自立支援事業や成年後見人制度について学んでいる。又地域包括支援センター谷山南や、本庁長寿支援課の協力を頂、成年後見人の選任に向け支援も実施中。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居手続きチェック表に基づき、運営規定、契約書、重要事項説明書や事故防止委員会等の活動状況、医療連携体制等の同意を必要とするもの、看取りに関する事項など運営者と管理者が詳しく説明している。又退去の条件や利用料等トラブルが予測される事項は、特に時間を掛け理解を得て契約している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からは、日々の生活の中や介護相談員への相談の中で、思いを聞き記録している。家族からは面会や運営推進会議、家族会、運動会などで出された意見や要望等を職員で協議し、運営やケアに反映させている。第三者委員も掲示し、相談や苦情が言いやすい体制を作っている。相談苦情処理委員会の報告も、機会あるごとに報告している。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、思いを把握している。市の介護相談員の助言も参考にしている。家族からは面会時や家族会・運営推進会議参加時に意見を聞く機会としている。毎月「さくら荘便り」を送付して意見や要望等を聞いて、運営に反映している。第三者委員も提示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は各委員会や全体会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、皆で討議し方針を決定し、運営の改善に繋がるよう心がけている。相談毎は個別に聞き適切にアドバイスしている。自己啓発用のシートを使いキャリアアップの意識を持たせている。懇親会で職場の連帯感を、OJTで皆で成長する意識作りを図っている。	代表者や管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り、意見が言いやすい環境づくりに努めている。各委員会や全体会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るようになっている。出された提案で、足漕ぎ運動用具を設置し、足腰の筋力低下予防に反映している。ベットから布団に変えることで利用者の不安解消と安全対策として反映させた事例もある。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護職員処遇改善の施策として経験、資格、評価のあり方等給与制度の見直しを実施した。代表者は、退職者を出さないように、給与水準、労働時間、やりがい、各自が向上心を持って働ける職場環境、条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己啓発とOJTを積極的に実践している。平成27年度は、介護支援専門員2名 介護福祉士2名資格取得 28年度は実務者研修を2名受講し、1名が介護福祉士の資格を取得した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福平校区内の他施設を訪問し、ケア改善発見の機会としている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にさくら荘に来訪して頂き、本人の意思やご家族の思いをお聞きし、担当介護支援専門員の意見や、施設の情報提供書を参考にして、適切なアドバイスに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めていることを理解し、さくら荘としてどのような対応が出来るか、事前に検討し、ご家族の苦労やサービスの利用状況、経緯等お聞きし、介護計画書と共有ケア確認表を提示することで、次の段階の相談に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人が今何に困っているのか、しっかり聞き取り、適切な入居の提案と、必要に応じた、他のサービス機関の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	穏やかで、楽しく生活出来るように、声掛けや場面作りをしている。職員はカンファレンスを通して共有ケアを用い、良い関わりが持てるように確認している。本人の思いを大切に、「してあげている。」という意識を持たずに、共に支えあえるような、関係作りに務めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にさくら荘の行事に参加して頂いたりして、ご家族と本人との機会を増やすようにしている。面会后、家族の歴史等お聞きしたり、情報交換を行い、共にご本人様を、支える関係作りに務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも、気軽にホームに立ち寄れる雰囲気を作っている。友人や親戚等の訪問が多い。関係者が訪れた時は、居室で楽しく過ごして頂く。電話や手紙の取次ぎなど・継続的關係が途切れないよう働きかけている。馴染みの理美容院の利用や外食、外泊、買い物、墓参りなど、家族の協力を得て支援している。	友人や親せきの訪問が多く、訪問の際にはお茶を出すなどして継続的關係が途切れないよう働きかけている。手紙や電話の取次ぎなども行っている。家族の協力で外出や外食・墓参・理美容室などの際にも支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に座席の工夫をして、会話が持てたり、ご利用者が職員に声かけして下さるような、環境作りに努めている。又個別に話を聞き、お互いの関係がうまく行くように支援している。1階2階のご利用者様の交流の機会を、芋ほり、スモモ等の収穫、庭での食事、茶話会等を通して行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所により退所されたご利用者の、ご家族の不安や困り事の相談には、いつでも応じることが、出来るように努めている。退居後、ご家族よりの、電話やお手紙を、たくさん頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話を大切にし、言葉やしぐさなどから、思いや意向を察知している。若い頃の話になると、話が弾み生活歴を知ることが多い。コミュニケーションが困難な利用者については、筆談等をして、表情や仕草、家族からの情報で、共有ケア確認表を活用し、本人中心の支援を行っている。	入居の時、生活歴や生活環境を聞いて把握したり、日常の会話やしぐさからも把握している。若いころの話を聞くことも多く、入浴や夜間は思いを聞きやすい。気づきを記録し、思いを受け止めるための情報としている。困難な場合は家族からの情報や関係者から聴き取り、職員間の連携で本人本位に検討している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談契約時や入居後、ご家族来訪時に聞き取りを行っている。過去の認定情報やフェースシート活用、日常会話の中から過去の暮らしぶりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、それぞれの過ごし方を見守り把握している。出来ること、わかる事を言動や行動から感じ取ったり気付くことで職員間で情報を共有して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族が望む暮らしを中心に、生活記録から、状況の変化や問題点等を支援経過表を通して作成し、3ヶ月毎モニタリングする。医師や訪問看護師の参加または意見を取り入れて、担当者会議やカンファレンスを開催し、介護計画を作成している。また、朝礼時、一人ひとりの具体的状況を把握することで、介護計画に活かしている。	本人や家族の意向を確認している。主治医の意見も取り入れ、ケア会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録（食事・水分・排泄等身体的状況）やケース記録（暮らしの様子・本人の言葉や行動・職員の気づき・ご利用者の状態変化）を個別に記録し、職員は情報共有しながら実践や介護計画に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は、柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>民生委員には、運営推進会議や入居相談の為に来所等、協力を頂いている。 ボランティアによる踊りや演奏会等継続して協力を頂いている。 消防訓練・避難訓練等は、南消防署の協力を頂いている。 中学生の体験学習の受け入れを行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医の訪問診療、ご本人の今までの主治医継続についてご本人やご家族の意向を尊重して決めている。又、それぞれの専門医との協力関係が出来ている。可能な範囲でご家族の入退院援助、通院介助の協力を得ている。ご家族対応の受診には、医療報告書を作成してお渡ししている。</p>	<p>本人・家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医の受診を支援している。事業所の協力医の訪問診療は月に1回、訪問看護が週に1回あり、主治医との連携がとれている。家族が同行する時は、医療報告書を持参して受診している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの医療連携と準看を配置しており、常にご利用者の健康管理や状態変化に応じた支援体制を執っている。又緊急時や急変時の体制も機能している。ご家族には、面会時には状況報告がなされ、受診時には、状況報告と報告書を作成して提出している。状況によっては、医師との面談説明が出来るように取り計らっている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は生活記録等を持参して支援方法に関する情報を医療機関に提供している。入院期間中は職員が頻繁に訪問し、ご本人やご家族への支援を行い速やかな退院に結び付けている。入退院時には、ご家族と情報を共有し、支援を行っている。</p>			
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療機関連絡体制の指針に沿って、ご家族、医師、看護師を交えて状態の変化について話し合い、ご家族にその内容の報告をしている。ご家族の気持ちの変化やご本人の想いに注意を払い、以前行った看取りの経験を今後にも活かせる様にしている。平成28年4月に看取り介護を行った。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針があり、入居時に本人や家族に説明して同意を得ている。重度化に向けて、家族と話し合いを行い、意向を確認しながら、事業所でできることを説明して、主治医や関係者と連携して、家族と方向性を共有している。看取り介護も経験がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>南消防署の応急手当の研修に参加し学習している。後日マニュアルを利用して定例会等で全職員が学習している。常に心がけておく必要があるのでポスターでの啓発を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>南消防署の協力を得て、年2回、消火避難訓練をご利用者も一緒に参加し、実施している。車椅子利用者は、フットレストを使用する。月1回の定例会を通して災害時のマニュアルや器具の確認をして、意識を高めるように努めている。またスプリンクラーや緊急通報装置、地域住民へ知らせる火災報知機も設置している。大規模災害時のマニュアルの整備や、災害時の食料等の備蓄もある。</p>	<p>年2回消防署立会いのもと、昼夜想定消火避難訓練を実施している。地域住民の参加もある。スプリンクラーや緊急通報装置・火災報知機も設置している。毎月器具の点検や避難場所の確認も行っている。災害時の水や米・食料は1週間分を備蓄し、カセットコンロも常備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のかかわりの中で、利用者の尊厳とプライバシーを保持する言葉かけや対応に留意している。人格を尊重してフィジカルロックなどに注意し合っている。成年後見人制度を活用している利用者もいる。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを傷つけないために、マニュアルに沿って勉強会を行い個々を良く知り、言葉使いや言葉かけ、否定的な言葉に注意している。スピーチロックやドラックロック等に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者が決定するのではなく、いろいろな選択肢を準備してそれぞれが、自分で決める事が出来る場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調やその日、その時の気持ちを尊重し、散歩、買い物、ドライブ等、個々の思いや状態に配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2ヶ月に一回、訪問理・美容を利用している。着替えは、ご本人の意思で決めて頂き、自己決定の出来ない方には、職員が声掛けして一緒に行っている。ご本人の望む店がある時には対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は、栄養面に配慮しながら、ご利用者の希望を取り入れるように工夫している。野菜切りや盛り付け、配膳・下膳等、節分の巻き寿司や餃子作り等をご利用者と共に行い、職員も同じテーブルで楽しく食事が出来る様に努めている。季節を感じる様なツワの皮むきや竹の子の下ごしらえ等、一緒に食事の準備をしている。口腔ケアもしている。</p>	<p>利用者の嗜好に合わせて、食事が楽しみなものになるよう、献立には季節の野菜を取り入れ、栄養面や形態を考慮している。誕生会やおせち料理・季節の行事食に配慮している。園庭での昼食会、ホットプレートでの焼きそば作りなど、食事が楽しみなものになるよう工夫している。玉葱の皮むきやつわの皮むき等、一緒に行い楽しんでいる。食事後の口腔ケアも大切にしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々の摂取量、食事形態、体調に配慮し、肉、魚、野菜をバランスよく取り入れ、献立は、ご利用者の希望や内容に工夫を凝らした飽きない献立に努めている。水分量は、1日1000ml 摂取を目標にOS1やノカリーシロップ、牛乳、ヨーグルト等を利用し声掛けしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>提携歯科医の協力を得ながら、一人ひとりの口腔状態を把握し、その人に応じた口腔ケアを行い、肺炎予防に努めている。食後の歯磨きの声掛けや義歯洗浄などの支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや自尊心に配慮しながらトイレでの排泄を大事にしている。繊維質の多い食材や水分摂取、運動などを工夫して、自然排便と排泄の自立を支援している。排泄記録をもとに一人ひとり把握してタイミングを見計らって回りに気づかれないように工夫し自立支援をしている。	排泄チェック表で習慣を把握している。自尊心に配慮しながら声かけをし、トイレでの排泄を大切にしている。食事や運動で、自然排便と排泄の自立を支援している。排泄後の清潔保持にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄記録やご利用者への聞き取りと便器の確認を行っている。運動の出来ないご利用者や少ないご利用者は、医療との連携で下剤の処方を受けている。繊維質の多い食材や水分補給、散歩、家事活動等身体を動かす機会を設け、自然排便が出来る様に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は基本的に週3回、体調や希望に沿った入浴ができるように対応している。入浴を拒む利用者には声かけや順番を変えるなど職員間で連携し、状況改善に努め、無理強いはしないようにしている。足湯もたのしんでいる。	入浴は基本的には週3回、午前中となっているが、体調や希望に合わせて柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者には時間を調整したり、声かけの工夫等で職員と連携しながら支援している。失禁時などの清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を促して生活リズムを整えるように庭の散歩などを行っている。一人ひとりの体調、表情、希望に添った安眠や休息の支援を行っている。医療と連携を行いながら眠剤などの処方を受けている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効、用法、用量を把握し、与薬確認をし、生活記録表に記録して誤薬事故防止に取り組んでいる。副作用については、下剤、睡眠等について、その都度変化の確認をしている。薬の管理は個人別にしたり色分けにして誤薬予防にも努めている。服用時は、本人の前で名前と時間を声出し確認し、服用の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりの今したい事や出来る事を尊重し、体調に配慮しつつ、食事作りや園芸、洗濯物たたみ、掃除、塗り絵、将棋、オセロ、園庭昼食会やお茶会、外食等楽しい時間を持つような支援を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご利用者の高齢化と重度化に伴って外出が少なくなっているが、希望や体調に応じて、日々の散歩や園庭でのレクリエーション、菜園や果樹の収穫で季節の移り変わりを肌で感じて頂いている。鹿児島国際大学の散歩花見など計画を立てて事故の無いように留意しながら支援している。ご家族への参加も呼び掛けている。</p>	<p>日常的には園庭を散歩したり、菜園や花壇を楽しんでいる。天気の良い日はウッドデッキでのお茶飲みや日光浴の支援もしている。個別支援で買い物にも出かけている。計画を立てて、初詣や国際大学に花見に出かけたりする。家族の協力で外泊や外出・外食・墓参などの際にも支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族と話し合い、事業所で預かり毎日1階2階職員が金額の実査を行い管理している。職員と一緒に買い物に行き、お金がある安心感や満足感を持って頂ける様に支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話を希望される方には、事務所の電話をご利用して頂いている。時には職員が一部対応して支援している。手紙が届いたらすぐにご利用者にお渡しし、また、読んで差し上げたりして支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は換気や音や採光や匂いなど配慮し刺激がないように安心できる空間作りに取り組んでいる。掃除は毎朝皆で行っている。冷暖房の温度管理に気をつけている。壁には利用者の作品や行事の写真・正月に撮った着物姿の写真などを飾っている。玄関前には、桜の大木があり春は花見を楽しんでいる。ホールから眺める庭には、すももや梅などを植え、季節を楽しみ居心地よく過ごせるようにしている。</p>	<p>共用空間は、大きな窓から街並みを眺め、採光や温度・湿度等に配慮し空調管理が整っている。壁には季節感のある利用者の作品やぬり絵が飾ってある。お正月に和服姿で撮った写真は温もりを感じる。玄関前には桜の大木もあり、2階のユニットからも花見が楽しめる。ソファで居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビ前のソファやフローアの椅子、リビングテーブル等、各人好みの場所を確保している。ソファの位置も季節やご利用者の希望に応じて変更している。</p>	/	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広い窓からは近隣の家並みや庭が見え、居室には馴染みの小物や季節ごとの切花、本人手作りのカレンダーや誕生日メッセージ、季節の工作物、家族の写真、友人の手紙などを飾りその人らしい個性のある空間作りを工夫している。</p>	<p>居室はエアコンやベッド・クローゼットが備え付けである。家から持ち込まれたテレビやタンス・寝具・位牌・手作りカレンダー・写真・鉢植えの花等が持ち込まれ、個性のある部屋づくりがされている。誕生日のメッセージがあり、家族の優しさを垣間見る。居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 1階	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室入り口に目線の位置で名札や写真を掲示している。3ヶ所の「便所」の名札のある共用トイレを一人ひとり本人の使い勝手の良いトイレを利用している。リビング近くの洗面台は、センサー付き蛇口でスムーズに手洗いやうがいができる。食事のテーブルの位置も、人間関係を考慮しながら決めている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない